

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>教育理念・目的・目標を教員室、各学生ホール、各教室に提示している。また、学生が日々の講義においても常に意識していけるよう、各初回講義において教育目標に合わせた学習目標の説明を外部、内部講師に依頼した。卒業時アンケートにおいても、常に意識し取り組むことができたとの声があった。教育目標は、その内容と卒業生像に一貫性があり、学生の最終ゴールが見据えられている内容に設定されている。地域調査アンケートを実施した結果から、コミュニケーション能力など不足している部分も見えてきた。今後、学生の傾向をふまえつつ、地域のニーズに応じた具体的な文言を追加検討していく。</p>
II. 教育課程	<p>教育課程の設定は、カリキュラムの全体構想や、教育理念・目的・目標、教育課程・授業・評価はシラバスや実習要項に示している。</p> <p>本校の新たな取り組みとして、多職種理解に繋がるように他校との共同学習を計画したが、今年度は感染症の流行により実施には至らなかった。しかし、実施に向けての準備は整えているため、実現できるようにする。</p> <p>次年度に向けて講義概要の見直しもできた。次年度からは担当講師の実務経験の明示も行った。単位認定の基準や方法はより具体的に講義概要に記載した。</p> <p>実習においては、教員と指導者との役割の明確化に向け、連携・協働しながら学生の学びが保証できるよう努めている。今後も実習病院、指導者への働きかけを行っていく。また、教員の授業準備時間の確保も課題である。</p>
III. 教授、学習、評価過程	<p>シラバス、カリキュラム構造図や実習要項に各科目の目標・考え方は明示している。シラバスには、指導技術等を学生にとってわかりやすい内容で明示した。学生が行う授業評価は継続できている。今年度より教員は講義の自己評価を行い、講義の改善に努めている。しかし、外部講師が学生の評価を生かし改善されたかの把握はできていない。また、実習評価の方法として、レポートによる総括的評価だけでなく、形成的評価を含めていく方法へと変更し、より多面的に評価を行うように向上した。今年度実施した卒業生への卒業後半年経過時の状況調査は、教育課程を評価する情報となるため、今後も継続して実施していく。</p>
IV. 経営、管理過程	<p>設置者の意思・指針は明確にされ、教職員はその考え方を周知できている。組織体制は権限や役割機能・意思決定システムは整っており教育理念・教育目標との整合性もある。今年度2名の教員が養成研修を終了し、新たに2名の教員も入職した。更に来年度は1名の教員が教員養成研修に参加予定である。今後必要な教員の人員を維持し、専門性を生かした教育が実践できるようにしていく。</p> <p>母体組織は2014年度より公益法人となり、現在財政基盤は安定している。校舎の外壁の工事も実施された。他にも新しい床置空調機の設置や、LED電器化、電気自動車の公用車の配備等、必要な施設整備は行われている。今後も計画的に施設設備の整備を行っていく。更にホームページの充実により、適宜情報提供は行っている。また、年間を通し、ガイダンスや学校説明会・模擬授業への参加もできた。これらより、情報提供は十分行っている。昨年より開始した学校関係者会議のメンバーに同窓会会長とPTA代表の2名を加え、今後定期的に実施予定である。</p>
V. 入学	<p>入学者選抜についての考え方は学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項などで示しているのでこれを継続していく。入学の選抜や分析はされている。看護専門学校への進学者数が全国的に減少傾向にあり、松阪地域も同様である。更なる改善のために近隣の高等学校との情報交換を行い、要因分析し不足点を次年度に生かしていく必要がある。</p>

<p>VI. 卒業、就業、進学</p>	<p>卒業時の到達状況を捉えるために、卒業生配属先の病棟師長にアンケート調査を実施し、教育理念・教育目標との整合性の観点も含めて分析を行った。今後も継続して調査を行い、卒業時到達状況、就業・進学状況を把握していく。また、主な実習病院である4病院との連携会議の実施により、卒業生の就業先での状況を把握し、問題を明確にしている。更に、病院に卒業生の状況を聞き情報交換を行っている。これらのことを今後も継続し卒業生の就職後の状況把握に努めていく。今年度より、卒業生に卒業後の活動状況報告の必要性や相談体制について説明することにした。また、同窓会会長から同窓会活動について説明した。今後は、卒業生の活動状況を統計的に整理し分析できるよう情報収集と方法の検討が必要である。</p>
<p>VII. 地域社会、国際交流</p>	<p>社会との連携では、地域社会のニーズを知るために行政、保健・医療、福祉、教育など各方面の方々にアンケート調査を実施した。調査結果は属性ごとに集計・文章化・グラフ化した。それらをもとに分析し、地域が求める看護師職務能力と学校教育に期待することを明らかにした。地域社会への貢献については、松阪シティマラソンのボランティア参加を予定していたが、新型コロナウイルス対策でマラソンが中止となり参加できなかった。障害者ふれあい教室のボランティアや地域患者会のバザーへの協力などは行えた。地域資源活用においては、講義で市長から松阪市の特性（災害に対する行政の考え方など）を、保健師から松阪市の保健活動について、地域包括支援センター職員から松阪市の地域包括ケアシステムの内容などを学んでいる。更に、外国語や文化人類学などの科目で異文化についての学習ができるよう科目配置している。</p>
<p>VIII. 研究</p>	<p>研究活動の保障については、研究に必要なSPSSのソフトの導入予定であるため環境面で充実されつつある。教員は自主的に研修や学会へ参加している。しかし、教員数の不足や新人教員が半数を占める状況があり、時間の確保も困難で研究活動には消極的な状況にある。それと共に研究活動を助言・検討する体制も十分ではない。しかし、大学の教員に指導を受けて研究を始める教員もいることから、今後も研究活動が活発に行えるように、課題として継続的に取り組んでいく。</p>

# R 1 年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R1 年度評価点数	H30 年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3.0	3.0
II. 教育課程	2.6	2.6
III. 教授、学習、評価過程	2.9	2.8
IV. 経営、管理過程	2.9	2.7
V. 入学	3.0	3.0
VI. 卒業、就業、進学	2.8	1.8
VII. 地域社会、国際交流	3.0	2.7
VIII. 研究	2.0	1.6

